

はまだ

HAMADA SHIGIKAI DAYORI

市議会 だより

2006年(平成18年)2月1日発行
はまだ市議会だより Vol.1

主な内容	頁
合併後の最初の一般質問に 14 人が登壇	4
正副議長就任あいさつ・・・	2
臨時議会のあらまし・・・	2
定例議会のあらまし・・・	3
審議事項一覧・・・	9

浜田市議会議員勢揃い!!



浜田市議会議員

正副議長 就任あいさつ



市議会副議長
美 浦 美 樹



市議会議長
牛 尾 昭

市民の皆さまにおかれましては平素から市議会に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。さて、私たちは、去る十一月の市議会臨時会におきまして、はからずも議長並びに副議長に選任されました。

私たちは、まことに身に余る光栄でありまして、衷心から感謝いたしますとともに、この重責を一層痛感している次第でございます。

浜田市も昨年合併をし、今後は各自地区の振興策、島根あさひ社会復帰促進センター建設事業、浜田医療センター移転新築事業等、市議会の果たす役割はますます重要なものとなっております。

私たちは、もともとと微力ではありますが、市議会の活性化と円滑な運営に努め、市政の発展と市民福祉の推進に、誠心誠意努力をいたす覚悟でございます。

今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のこあいさつといたします。

平成17年
11月

臨時市議会の あらまし

平成十七年十一月浜田市議会臨時会は十一月十七日に召集され、会期を十八日までの二日間として開催しました。

今議会は、十月一日に合併後の初めての市議会議員選挙で、十月二十三日に施行され、三十六人の議員が選ばれ、選挙後初めての議会です。

本会議では、市議会正副議長、浜田地区広域行政組合議会議員や浜田市江津市旧有福村有財産共同管理組合議会議員などの選挙を行い、議会運営委員会委員、常任委員会委員、監査委員の選任などを行いました。

また、合併に伴い即時施行をしなければならぬ専決処分承認(二六八件)や浜田市旧若生分校校舎再活用地域間交流施設条例などの専決処分の承認(四三件)、浜田市附属機関設置条例の一部改正などが審議されました。そして議員からは浜田市議会会議規則や浜田市議会委員会条例など三件が提案され、可決されました。

新市発足に伴う助役、収入役、教育委員、監査委員、公平委員、固定資産評価審査委員の選任について同意しました。

市議会の構成

今臨時会で選出された役職及び所属等は次のとおりです。

(委員長 副委員長)

市議会議長 牛尾 昭

市議会副議長 美浦 美樹

(議会運営委員会)

川神 裕司 吉田 千昭

澁谷 幹雄 大谷 弘幸

西田 平 江角 敏和

岡田 治夫 島本 鎌利

牛尾 博美 下隅 義征

(常任委員会の設置)

(総務文教委員会)

澁谷 幹雄 西田 清久

道下 文男 平石 誠

三浦 一雄 川神 裕司

中村 建二 木村 正行

(福祉環境委員会)

山田 義喜 鎌原ヤシエ

三浦 保法 三浦 美穂

西村 健 大谷 弘幸

角田 勝幸 江口 修吾

美浦 美樹

(産業経済委員会)

西田 平 山崎 晃

佐々木豊治 江角 敏和
岡田 治夫 牛尾 博美
下隅 義征 小川 泰昭
高見 庄平
高原 好人 島本 鎌利
新田 勝己 田村 友行
吉田 千昭 原田 義則
濱松 三男 向 惇雄
湯浅 勝

(建設都市委員会)

(一部事務組合議会議員)

浜田地区広域行政組合議会議員

平石 誠 三浦 保法

三浦 美穂 川神 裕司

原田 義則 下隅 義征

浜田市江津市旧有福村有財産共同

管理組合議会議員

道下 文男 三浦 一雄

角田 勝幸 牛尾 博美

濱松 三男 美浦 美樹

(浜田市監査委員)

原田 義則

(同意案件)

浜田市助役

松尾 紳次 氏

浜田市収入役

佐々木康夫 氏

浜田市教育委員会委員

山田 洋夫 氏

岡田 義徳 氏

藤本 孝男 氏

野藤 董 氏

平成17年
12月
**定例会議会の
あらまし**

平成十七年十二月浜田市議会定例会は十一月三十日に招集され、会期を十二月二十一日までの二十二日間として、開催しました。

今回市長から提案された案件は、条例制定六件、条例改正九件、予算十五件、その他二件、人事案件五件の合計三十六件が提出されました。議員からは、特別委員会の設置二件、選挙管理委員、同補充員の選挙二件、農業委員会委員の推薦、意見書二件が提出されました。これらの議案の内、人事案

- | | |
|------------------|---------|
| 浜田市監査委員 | 領家 務 氏 |
| 浜田市公平委員会委員 | 水野 文雄 氏 |
| | 吉田 稔 氏 |
| | 島津 博 氏 |
| | 古原 忠雄 氏 |
| 浜田市固定資産評価審査委員会委員 | 宮本 延寿 氏 |
| | 吉浦 宏 氏 |
| | 小野 善道 氏 |
| 浜田市固定資産評価員 | 平野 一茂 氏 |

**本会議で審議された
主な議案の内容**

件については、委員会付託を省略し原案どおり可決しました。それ以外の議案は、所管の常任委員会に付託し、また予算については特別委員会を設置して慎重に審査いたしました。請願一件を不採択とし、意見書二件を可決し国等へ送付しました。

一般質問では、十四名の議員が質問しましたが、その内容は次のページに掲載のとおりです。

〔予算関係〕

平成十七年度、浜田市一般会計予算

この予算は、十一月の臨時会で承認した暫定予算を、編成期間を平成十七年十月一日から平成十八年三月三十一日までの会計年度とする本予算として調整するもので、予算規模は一般会計が二百四十五億四千五百六十七千円で特別会計を含めた総額は三百八十四億五百四十六万三千円とするものです。

〔条例関係〕

浜田市附属機関設置条例の一部を改正する条例

「浜田市保健医療福祉協議会会則」
「浜田市環境清掃対策審議会」
「浜田市簡易水道事業審議会」
「浜田

市美術品等収集委員会」の四つの附属機関を設置するものです。

浜田市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の制定

浜田市のホームページから電子申請サービスを利用し、前もって申請すれば証明書を受け取る時など、窓口での待ち時間も短縮されます。

浜田市議会議員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

浜田市長等の給与に関する条例の一部を改正する条例

浜田市教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例

人事勧告並びに鳥根県の動向を受け、報酬について必要な事項を改正するもので、十二月期支給に係る期末手当の月数を〇・〇五月加算し一・七五月とするものです。

浜田市職員の給与の支給に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告を受け、浜田市職員との給与について必要な事項の改正をするものです。平成十七年十二月以降の月例給を〇・〇三%引き下げ、配偶者に係る扶養手当を五百円引き下げ、勤勉手当について

は、十二月支給分を〇・〇二五月加算し、来年度以降六月期・十二月期それぞれ〇・〇二五つき加算するものです。

〔人事案件〕

浜田市助役（各自治地区長）の選任について

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 金城自治区 | 安藤 美文 氏 |
| 旭自治区 | 花本 博文 氏 |
| 弥栄自治区 | 田野島正徳 氏 |
| 三隅自治区 | 泉川 晋作 氏 |
| 浜田市選挙管理委員及び補充員が選挙により次の方々が当選されました。 | |

- 選挙管理委員
- | | |
|--------------|--------------|
| 中田ミヨ子さん（浅井町） | 天野 幸雄さん（国分町） |
| 宮本 文雄さん（金城町） | 矢富 俊春さん（三隅町） |

- 補充員
- | | |
|--------------|--------------|
| 青葉 秀信さん（旭町） | 山代 由香さん（弥栄町） |
| 藤川 修司さん（三隅町） | 新井 和子さん（真光町） |

- 浜田市農業委員会委員の推薦について同意しました
- | | |
|--------------|-------------|
| 岡田 治夫さん（議員） | 林 秀司さん（熱田町） |
| 佐々木京子さん（田橋町） | 岩田 功さん（弥栄町） |

- 人権擁護委員候補者の推薦について同意しました
- | | |
|--------------|-------------|
| 宮下 善重さん（熱田町） | 城 悦子さん（黒川町） |
| 龍川 和子さん（松原町） | |



核兵器廃絶平和都市宣言

〔特別委員会の設置〕
本定例会において次の二つの特別委員会を設置しました。

（委員長 副委員長）

島根あさひ社会復帰促進センター
調査特別委員会

島根あさひ社会復帰促進センターの設置及び運営に関する事項の調査及び研究を行うことを目的とする。

田村 友行	原田 義則
佐々木豊治	平石 誠
三浦 一雄	角田 勝幸
西田 平	江角 敏和

鎌原ヤシエ

行財政改革推進特別委員会

市の行財政改革の推進に関する事項につき、調査及び研究を行い、行財政改革推進本部に対して必要な意見又は提言を行うことを目的とする。

牛尾 博美	下隅 義征
道下 文男	新田 勝巳
山田 義喜	澁谷 幹雄
西村 健	川神 裕司
湯浅 勝	

江角敏和議員

主要事業の推進と
財政運営について

質問

地方債発行ルールの変更に伴う財政運営と、浜田駅自由通路へのエスカレーター設置及び十八年度実施となっている高機能消防指令センター整備の実施方針を問う。

答弁

早い時期に中期財政計画で見直しをしたい。エスカレーターは、概略設計に取り入れたい。合併協議で確認されている十八年度の事業については実施したい。

新市で定める事項に
対する方針について

質問

新市で定める市章・市民憲章や各種宣言、とりわけ核兵器廃絶平和都市宣言（仮称）の制定方法と制定時期の考えについて問う。

答弁

市章・市民憲章や市民歌は、委員会を設置し、合併一周年記念日には披露したい。核兵器廃絶平和都市宣言は、八月六日を考えている。

その他の質問

一体感もてるまちづくりに
ついて
福祉医療費の市単独助成につ
いて

アスベスト使用・耐震強度偽
装問題への対応について

三浦保法議員

新生浜田市の

「浜田市市民憲章」の早期制定を

質問

合併前のそれぞれの市町村には憲章を定め、住民の地域づくりの精神的目標を掲げ、まちづくりに取り組んできたが、新市になりそ



重要港湾三隅港

の思想を網羅し、高齢者から子供たちまで理解でき、自ら進んでまちづくりに参加したいと思えるような新しい市民憲章が必要である。今後、制定について検討委員会を設置するのか、制定の時期はいつ頃なのか問う。

答弁

合併前はそれぞれの市町村とも憲章が定められており、その憲章に流れる精神は、表現方法や項目に若干の異なる点はあるものの、郷土を愛し、住民みんなで住んでいるまちを素晴らしいものにしようとするもので、基本的には共通したものであると思っている。新市のエリアも広がり、社会を取り巻く状況も制定当時から変化してきたが、市民に愛され、親しまれる市民憲章を制定したい。具体的には、有職者や市民による検討委員会を平成十八年度速やかに設置し、これまでの各憲章を基本とし

三浦一雄 議員

**市町村合併における
高齢者同居世帯の
戸別収集について**

質問

浜田自治区では、平成九年四月一日から公平・公正な環境行政の

て、一周年記念となる平成十八年十月一日までに策定できるように精力的に取り組む。

その他の質問

浜田・三隅港の利活用と自治区間職員の人事交流について

三浦美穂 議員

高齢社会への対応について

質問

介護サービスの創設を柱とした改正介護保険法が、平成十八年四月から施行される。高齢者の自立した生活の継続を後押しする「地域支援事業」と重度化を防ぐための「介護予防事業」が提供されるが、その取り組みについて問う。

「福祉バス」の利用状況並びに課題や、市民要望について問う。車をもたない高齢者など、交

通弱者のための生活バスの運行についての展望を問う。



介護保険サービス

答弁

真に支援が必要な人に必要なサービスが提供できるよう態勢整備を行う。地域支援事業として、運動機能の向上、口腔機能の向上栄養改善などを実施する。

老人クラブ等を中心に昨年は月平均二十一団体三百十二人の利用、高齢社会への対応策として、新市の交通体系全体の中での議論が必要であると認識している。

バス交通システムは、新市まちづくり計画の中の重点プロジェクトとして「公共交通路線と連携した、交通不便地の生活循環バス路線の構築」と位置づけ、生活交通ネットワークの整備に向け「新交通システム検討会議」を立ち上げ、現状把握の検討に着手した。

その他の質問

文字活字文化の振興について

等にとつて、戸別収集サービスの確保は、生活の基盤を支える手段として切実な問題と認識している。重要な検討課題としたい。

質問

ごみ集積所の増設について、高齢化に伴い、集積所までの距離が長く搬出が困難であるとの住民の

答弁

高齢化が急速に進むこの地域にあつて、ごみ搬出が困難な高齢者

実現を模索しつつ、廃棄物行政の推進並びに公的サービスの拡充と高齢化対策の手法の一つとして、寝たきりや認知症等で介護を必要とし、家事・ごみの分別排出等、日常生活に支援が必要な方を対象に、環境課職員が戸別収集を行い、当初は十七件だったが十一月一日現在では九十件となっている。市

声を聞く。この問題の解決手段を検討できないかを問う。

答弁

高齢化に伴い、ごみの搬出が難しい方が増加することも想定され、これからの集積所のあり方については、研究課題とする。

道下 文男 議員

若者の雇用促進と

日脚海岸・河口整備について

質問

浜田市の若者にもっと元気を出してもらいたいが、残念ながら今の現況は《仕事がない 若者がいない 子供がいない 町が寂し

い》であるように思える。

そこでこの悪循環を断ち切るべくビックチャンスが旭矯正施設と医療センター移転の駅北開発事業と認識している。このチャンスを見逃がすことなく行政として雇用促進等についての所見を問う。

日脚海岸の保全は二十年前から地域の住民が要望しているが、今では浜も無くなり大しけの時は、異常潮位が重なりと海拔の低い日脚の集落は水浸しとなる。周布川河口は砂が堆積し、大雨

が降るたびに洪水の恐怖と戦っている。鈴井川は多量のゴミが押し上げられ夏には強烈な悪臭がし、教育の面でも悪影響と思うが、行政の対応を問う。

答弁

二つのプロジェクトの工事発注等が、新浜田市の既存産業の活性化、雇用確保につながるよう関係機関に強く働きかける。

日脚海岸は、この度「浜田港日脚地区港湾隣接区域」に指定され、事業導入の要件が整備された。早期に海岸と西河口の保全が一体的対策事業として着手されるよう取り組む。



単独存続について教育長の考えを問う。

答弁

浜田市としては、水産業を基幹産業と位置付けていることから、存続は必要であると考え、島根県などに対し存続運動を展開している。島根県議会の、文教厚生委員会において継続審議することになっており、今後島根県に対し、浜田水産高校が単独高校として存続するよう、強く要望していく。

水産に関する実習や、航海体験学習など、水産高校ならではの、海を通じた生きた体験学習を行っている。水産教育は地域振興や水産振興の観点から果たす役割は非常に大きいといえる。今後も生徒数が減少していく状況であるが、水産業の振興を図るために、将来を担う水産人の育成、確保は重要な課題である。中学生の進学先としても重要な役割をもつ学校であるので、水産高校が単独校として存続することを望んでいる。

山崎 晃 議員

**島根県立浜田水産高等学校の
単独存続について**

質問

水産都市浜田にとって、水産業は重要な基幹産業であり、その将来を担う水産人を育成するために、単独の水産高校の存続は、必要ではないか。浜田市長の考えを問う。

水産教育の重要性は、どのよう

日脚海岸





島根県立浜田水産高等学校

角田 勝 幸 議員
地域の自立と
地域リーダーの育成

質問

合併後のまちづくりとして、従来の行政主導型でなく、地域との

協働による、物から人の活動へと切り替えが求められている。

そのためには、地域の自立にむけた取り組みと、地域リーダーの育成は、緊急の課題として取り組まなければならないと判断しているが、その考えを問う。

答弁

議員が指摘されるとおり、行政の主役は、そこに住む住民であると理解している。

具体的な取り組みとして、各地区にある公民館単位のエリアに委員会を組織化し、地域での幅広い人たちに参加していただき、地域の課題や市の施策に反映されるようなシステムを考えている。

地域リーダーの育成は、「人づくりは百年の大計」と言われるように、難しい課題であるが、職員にも、地域の力となるよう指導する。

大谷 弘 幸 議員
新浜田のまちづくりについて

質問

自治区運営について
地域協議会について
主要事業の取組みについて
事業推進と職員配置について
産業振興について

答弁

地域協議会を中心に市民の意見集約をし、市民と行政が一体となったまちづくりの推進が必要であると考える。自治区間の情報交換と調整は政策企画会議で行なう。

地域協議会委員に委嘱状の交付をしたが、年齢的に高く女性委員も少ない。今後バランスのとれた推薦を要望したい。会議は年四〜五回開催で原則公開とする。

概算事業費はCATV整備に約二十五億円、医療センター移転新築に約四億円、シビックコア事業に約四十億円、広域関連事業に約三十四億円を見込み、矯正施設の事業費見込みは現段階では困難。

新市の定員適正化計画の策定・実施と共に、行政サービス向上に配慮した事業の推進をしつつ組織運営の改善を図る。本庁支所間の人事交流は、より適正な職員配置が行なえるよう実施したい。

駅北整備事業は、駅周辺の一体的整備により活性化と経済効果が見込まれ、矯正施設建設事業も、産業振興や雇用拡大が期待される。今後情報収集に努め施策を実施する。

西村 健 議員
雇生活相談窓口の
業務内容の拡大について

質問

「浜田ひまわり法律事務所」の事務所開設からこの間の多重債務被害等に関する相談件数は、百十件とのことである。

市民の暮らしを守り、市税収入を増やすという視点で問う。
雇生活相談窓口開設から現在までの相談受付件数と業務評価を問う。
雇生活相談窓口の業務を多重債務被害にまで拡大できないか問う。

答弁

十三年度三十四件、十四年度三十五件、十五年度二件、十六年度三件、十七年度六件である。

複数の部署に関する相談は、総合的に受け、市では対応できない相談は、関係機関と連携を取りながら対応している。

多重債務被害の問題解決には高度な法律知識が必要であり、雇生活相談窓口では限界がある。

質問

窓口開設三年目から相談件数が激減しているのに、その分析が

ったくないがどうか。

【答弁】
相談件数の激減は、PR不足がその要因とされている。せつかく設置した窓口であり、早急に相談

西田清久議員
定住促進対策事業について

【質問】
定住促進対策事業については、新市全体の施策として、一体的に見直し、さらなる助成の必要性を問う。

【答弁】
厳しい財政状況の中、地域協議会の意見も伺いながら、これまで進めてきた各施策の現状や効果を精査し、見直しも必要と考える。

【質問】
平成十八年十一月に浜田市、津市で開催される「全国グリーンツーリズムネットワーク大会」に向けての抱負を問う。

【答弁】
浜田市には、石見神楽、石州和紙や温泉に加え、豊富な農林水産物の味覚などの資源がある。この大会は、田舎の良さ、地域資源の

を受け付けるよう検討したい。

その他の質問
ケーブルテレビ網の整備について
学校改修と耐震診断について

魅力を引き出し、観光資源や農林水産業の発展につなげたい。

【質問】
U・イターン者受け入れ側としての雇用問題と、住宅の空き家情報対策について問う。

【答弁】
島根県、ハローワークや浜田・江津地区雇用推進協議会、商工会議所等、関係機関と連携を図り、就職フェアの開催や、求人情報の提供に努める。空家情報は、現在浜田市のホームページから島根県の宅地建物取引業協会浜田支部のホームページにリンクしており、民間の住宅やアパートの空家情報を提供できるよう整えている。



新田勝己議員
**一体感のある新市を
どう創っていくのかについて**

【質問】
平成の合併は、高度経済成長に伴う東京一極集中と過疎化の進行、少子高齢化、厳しい財政状況がある。

新浜田市は、過疎問題で大変苦勞されている町村と一緒に頑張った。現在も基幹産業である農林業の在り方は重要である。

産業構造の変化は、農村破壊の現状がある。農業の再建と今後の取り組みについて問う。
新市の職員配属と人事交流について問う。

自治区予算が明らかにされている。市民感情の中に自治区優遇という意識のずれが生じないかを問う。

【答弁】
新市の基幹産業である農林業を振興し、地域経済を活性化させる自治区間に共通する取り組みが必要である。農林業生産振興支援組織の中ですすめる。
本庁・支所を問わず、色々な職場を経験し、市民の行政ニーズに対応したい。

新市まちづくり計画では、自治区を設置し、地域のことは地域

で解決すると共に、地域の個性を活かしたまちづくりを推進する。不安を払拭し、基本方針により新市を創造する。

その他の質問
海岸への漂着ごみについて

木村正行議員
**福祉医療への
市の独自助成について**

【質問】
自治体の最も重要な仕事である福祉施策が大きく後退している。重度障害者や一人親家庭の福祉医療費の市独自の助成について何とか対応したいとの意思表示に留まっている。

障害者団体の要請には、来春三月議会に市の方策を示すとされている。

すでに県下五市町で実施を決めているが、新市でも助成にふみきるべきである。明確な市の対応を問う。

【答弁】
福祉医療の制度改正で、負担が重く、治療したくても出来ない事態に、市の財政事情も厳しい中、低所得者への軽減措置として実施することとした。

質問

障害者への福祉サービス利用にも一割という応益負担が導入されてきた。「負担は能力に応じて、給付は必要に応じて」が社会保障の原則である。サービスの受給に応じて社会的弱者にまで負担を求め、負担出来ないならサービスを制限するという、制度は障害者福祉施策に相応しくないと考えるが、市の考えを問う。

答弁

制度の存続を可能なものにするために相応の負担も必要である。

その他の質問

旧町村の優れた施策展開について

渋谷幹雄 議員

自治労島根本部の不祥に対する、
新生浜田市のスタンスについて

質問

自治労島根本部の巨額使途不明金問題で、当時の担当書記は解雇無効確認の訴訟を松江地裁に起こしたとの報道があった。

浜田市職員組合から出向し、この期間に自治労島根本部の幹部として中心的な役割にあつた者が、今は浜田市役所の管理職に復帰しているということは、市民の

理解が得られないことと思うが、浜田市は問題ないという考えなのか問う。

今回の市議会選挙中、職員組合の指示で職員が市役所一階に集められ、特定の候補者を攻撃非難する発言があつたと聞くが本当か。

浜田市役所地下一階の職員組合事務所は、合併の段階で移転の方で検討するのではなかったのか問う。

答弁

出向職員に管理職はいないが、復帰は、地方公務員法に沿って対応している。一階ロビーで職員組合が行つた発言は、遺憾である。

職員組合事務所は、議会との約束を守り平成十九年の三月までには移転させる。

その他の質問

石見神楽殿の建設について

浜田市景観大賞の創設について
水道事業経営改善計画について

川神裕司 議員

財政危機回避と
政策見直しについて

質問

先般国勢調査の速報値が発表されたが、前回調査より二千四百

二十人の大幅減となつている。今後五年間でどの程度の財政的影響がでると分析しているか。また、交付税が大幅削減の場合、政策の方向転換や事業廃止も視野に入れなければならないが、市長の所見を問う。

先般固定資産税の算定基準になる基準宅地価格が浜田市駅前で二五%下落したと報じられたが、来年度の固定資産税額にどのように影響するのか。併せて、固定資産税、市民税、法人市民税の見通しと滞納金の状況、収納の対策について問う。

答弁

人口減による普通交付税の減収額は数値急減補正を加味して試算すると、五年間で約二億九千万円程度減少すると考えている。また、地方交付税の大幅削減があつた場合、事業量総体の見直しを図る。

下落の原因としては地域経済の低迷による業績不振や商業地需要の減衰等が考えられる。現在の調整率に変更がない場合、土地に対する税額は対前年比四%の四千万円程度減額になる。地価の上昇は今暫く期待できない。市民税、法人市民税も今後増収できず、滞納総額は三億八千九十万円で収納対策を強化したい。

審議事項一覧

本会議で付託された議案は、次の各常任委員会及び予算審査特別委員会において審査されました結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定されました。

総務文教委員会

浜田市議会議員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
浜田市長等の給与に関する条例の一部を改正する条例について
浜田市教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例について
浜田市職員の給与の支給に関する条例の一部を改正する条例について
浜田市名誉市民条例の制定について
浜田市附属機関設置条例の一部を改正する条例について
浜田市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の制定について
浜田市公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例の一部を改正する条例について
浜田市幼稚園条例の一部を改正

する条例について

浜田市立図書館協議会条例の制定について

浜田市スポーツ振興審議会条例の制定について

浜田市資料館運営協議会条例の制定について

浜田市過疎地域自立促進計画の認定について

福祉環境委員会

浜田市環境審議会条例の制定について

産業経済委員会

浜田市勤労青少年ホーム条例の一部を改正する条例について

建設都市委員会

市道路線の廃止及び認定について

予算審査特別委員会

平成十七年度浜田市一般会計予算

平成十七年度浜田市国民健康保険特別会計予算

平成十七年度浜田市駐車場事業特別会計予算

平成十七年度浜田市住宅新築資金等貸付事業特別会計予算

平成十七年度浜田市公設水産物仲買売場特別会計予算

平成十七年度浜田市老人保健医

療事業特別会計予算

平成十七年度浜田市公共用地先行取得事業特別会計予算

平成十七年度浜田市国民宿舎事業特別会計予算

平成十七年度浜田市公共下水道事業特別会計予算

平成十七年度浜田市農業集落排水事業特別会計予算

平成十七年度浜田市漁業集落排水事業特別会計予算

平成十七年度浜田市生活排水処理事業特別会計予算

平成十七年度浜田市簡易水道事業特別会計予算

平成十七年度浜田市水道事業会計予算

平成十七年度浜田市工業用水道事業会計予算

本会議即決分

島根あさひ社会復帰促進センター調査特別委員会の設置について

行財政改革推進特別委員会の設置について

浜田市助役(金城自治区長)の選任について

浜田市助役(旭自治区長)の選任について

浜田市助役(弥栄自治区長)の選任について

浜田市助役(三隅自治区長)の選

任について

浜田市選挙管理委員の選挙について

浜田市選挙管理委員補充員の選挙について

浜田市農業委員会委員の推薦について

人権擁護委員候補者の推薦について

請願の審査結果

定例会に提出された請願の審査結果は、次のとおりです。

不採択となったもの

総務文教委員会で審査
消費税の増税反対決議に関する請願について

意見書並びに決議

今議会において、次の意見書が議員から提出され、可決し、関係行政庁に送付されました。

意見書

真の地方分権改革の確実な実現に関する意見書について
議会制度改革の早期実現に関する意見書について

あとがき

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年十月一日に待望の新浜田市が誕生しました。

全国から注目されている浜田那賀方式の自治区制度を取り入れた歴史的な幕開けとなりました。

新市まちづくりの理念である、「青い海、緑の大地、人が輝き、文化のあふるまちづくり」の実施に三十六名の議員が、全力で取り組みたいと思います。

平成二十年度に開設予定の島根あさひ社会復帰促進センター建設事業、平成二十一年度に開院予定の浜田医療センターの移転新築事業は国・県・関連機関が一体となって取り組まれます。市民の皆さまのさらなるご支援をお願い申し上げます。

今後とも紙面の充実に心掛けてまいりますのでご意見、ご要望をお寄せいただければ幸いです。

議会だより編集委員会

- 委員長 山崎 晃
- 副委員長 三浦 美穂
- 委員 島本 謙利
- 委員 新田 勝己
- 委員 三浦 保法
- 委員 平石 誠
- 委員 道下 文男
- 委員 佐々木 豊治